日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

2版

様　式　Ｆ－７－１

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（令和元年度）

機関番号	３２６０４

所属研究機関名称		大妻女子大学
研究代表者	部局	家政学部
	職	准教授
	氏名	加藤　悦雄

１．研究種目名　基盤研究(C)(一般)　　２．課題番号　18K02455

３．研究課題名　子どもの権利の視点に立つNPOの支援構造と倫理的基盤形成のメカニズムに関する研究

４．補助事業期間　平成３０年度～令和２年度

５．研究実績の概要

2019年度は、主として、次に示す研究を実施してきた。
１．子どもの権利の視点に立つNPO（代表者）に対するヒアリング調査の実施と分析作業。２．１の分析結果の考察に基づく、2種類の仮説の抽出・・・ア．子どもの権利（子どもの最善の利益）に基づく支援内容には、“弱さの思想”に基づく支援が展開されていること、イ．子どもの最善の利益、すなわち“弱さの思想”に基づく支援を可能にする倫理的基盤は、①支援者が最初に“中動態的”な経験（水平的・内在的：内在的な倫理）をもち、その後に②子どもの権利（垂直的・外在的：超越的な法）の内面化を図ることで、形成されていくこと＊中動態的な経験が倫理を導き出す背景として、支援者が人と人との関係性に組み込まれ、それらの関係性が支援者の価値観や行動の理由となってくる点を指摘できる。３．２におけるイのメカニズムを導き出すための補足の文献調査として、『中動態の世界―意思と責任の考古学』『実践理性批判』等による文献研究の実施。
上記のうち、途中経過として明らかになった研究成果については、2019年度において紀要論文（1本）と編著本（1冊）を通して報告し、実績として残すことができた（具体的には、・紀要論文テーマ「弱さの思想はどのようにして当事者主体の支援を導き出すのか―児童福祉援助の倫理的基盤を求めて」、・編著本タイトル『〈つながり〉の社会福祉―人びとのエンパワメントを目指して』である）。

６．キーワード

子どもの最善の利益　弱さの思想　中動態　関係的な倫理

７．現在までの進捗状況

区分　（2）おおむね順調に進展している。

理由
主な理由は、次の２点である。
１．研究テーマの問いを導き出すためのデータと仮説を探り当てることができたことと、２．途中経過として明らかになった研究成果を、2019年度において紀要論文（1本）と編著本（1冊）を通して報告できたこと
・紀要論文テーマ「弱さの思想はどのようにして当事者主体の支援を導き出すのか―児童福祉援助の倫理的基盤を求めて」
・編著本タイトル『〈つながり〉の社会福祉―人びとのエンパワメントを目指して』
その一方で、１のデータをさらに増やしたいと考えているため、2020年度は最終年度となるが、データの分析・考察作業、報告書作成と並行して、引き続きデータ収集にも取り組みたいと考えている。

８．今後の研究の推進方策

2020年度は最終年度となるため、主として次の方策をとおして研究の推進を図りたいと考えている。
１．年度末までに3年間の研究報告書を完成させることを目標に置き、計画的に執筆を進めていくこと（印刷製本を含め、1月中旬の完成を目指す）
２．11月にアジア子どもの権利フォーラム（韓国）が予定されており、その場での研究報告を目指し、分析・考察を進めていくこと
３．12月に子どもの権利条約総合研究所研究報告会が予定されており、その場での研究報告を目指し、分析・考察を進めていくこと
４．追加の文献研究とインタビュー調査について、文献についてはすでに早期に購入し読み進めていくこと、また、調査について遅くとも8月までに予定をいれて実施すること

９．次年度使用が生じた理由と使用計画

参加を予定していた、アジア子どもの権利フォーラムinネパールが開催国の都合により中止となり、さらに子どもの権利研究会in札幌について新型コロナウィルス感染症拡大により中止となったため、次年度使用額が生じることとなった。
現在も、新型コロナウィルス感染症の影響により、参加予定であった学会等の中止が相次いでいるが、使用計画として、8月以降に実施予定となってる研究発表会や追加のインタビュー調査実施のための出張費として活用したいと考えている。

１０．研究発表（令和元年度の研究成果）

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 加藤悦雄	４．巻 56
２．論文標題 弱さの思想はどのようにして当事者主体の支援を導き出すのか―児童福祉援助の倫理的基盤を求めて―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 大妻女子大学家政系研究紀要	６．最初と最後の頁 校正中のため未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 加藤悦雄	４．巻 31
２．論文標題 子ども計画	５．発行年 2020年
３．雑誌名 子どもの権利研究	６．最初と最後の頁 197頁、198頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

１．著者名 加藤悦雄	４．巻 31
２．論文標題 書評：虐待死―なぜ起きるのか、どう防ぐか	５．発行年 2020年
３．雑誌名 子どもの権利研究	６．最初と最後の頁 217頁、218頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 加藤悦雄他
２．発表標題 保育・支援の質向上に子どもの権利をどう生かすのか
３．学会等名 日本保育学会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

１．著者名 加藤悦雄、西村昌記、伊藤正子、渡辺芳、熊田博喜、和秀俊、井上修一、寺田貴美代	４．発行年 2020年
２．出版社 生活書院	５．総ページ数 245頁
３．書名 〈つながり〉の社会福祉―人びとのエンパワメントを目指して	

１１．研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件／うち取得0件）

１２．科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

１３．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

－

１４．備考

－